

(別記様式第 1 号)

計画作成年度	平成 3 1 年度
計画主体	上富良野町

上富良野町鳥獣被害防止計画（第 4 次）

<連絡先>

担当部署名 上富良野町農業振興課農業振興班
所在地 上富良野町栄町 2 丁目 2 番 4 5 号
ふらの農業協同組合上富良野支所内
電話番号 0 1 6 7 - 4 5 - 6 9 8 4
F A X 番号 0 1 6 7 - 5 6 - 7 8 1 1

1. 対象鳥獣の種類、被害防止計画の期間及び対象地域

対象鳥獣	エゾシカ、ヒグマ、アライグマ
計画期間	平成31（2019）年度～2021年度
対象地域	上富良野町（全域）

2. 鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止に関する基本的な方針

(1) 被害の現状（平成29年度）

鳥獣の種類	被害の現状	
	品 目	被害数値
エゾシカ	水稲	被害額 4,757 千円
		被害面積 30.21ha
	小麦	被害額 6,287 千円
		被害面積 16.10ha
	大豆	被害額 4,220 千円
		被害面積 9.31ha
	スイートコーン	被害額 1,288 千円
		被害面積 2.85ha
	ビート	被害額 5,265 千円
		被害面積 9.35ha
馬鈴薯	被害額 2,180 千円	
	被害面積 8.00ha	
その他	被害額 749 千円	
	被害面積 6.07ha	
計	被害額 24,746 千円	
	被害面積 81.89ha	
ヒグマ	大豆	被害額 480 千円
		被害面積 3.00ha
	スイートコーン	被害額 200 千円
		被害面積 0.20ha
計	被害額 680 千円	
	被害面積 3.20ha	
アライグマ	スイートコーン	被害額 1,055 千円
		被害面積 2.42ha
	南瓜	被害額 2 千円
		被害面積 0.01ha
	計	被害額 1,057 千円
被害面積 2.43ha		
合 計		被害額 26,483 千円
		被害面積 87.52ha

(2) 被害の傾向

[エゾシカ]	上富良野町全域の山間地の農地において、3月下旬より小麦の食害から始まり、年間を通して水稲、スイートコーン、大豆、ビート等の農作物被害がある。その被害額は、ここ数年2千万円～3千五百万円で推移しており、農業者にとって深刻な問題となっている。
[ヒグマ]	上富良野町全域の山林に接した農地において、7月～9月にかけてスイートコーンやデントコーン等の農作物被害があるが、個体及び足跡については、4月中旬から11月下旬の営農活動期間全般にかけて目撃、確認されており範囲も広がってきているため、今後、農業被害が拡大することが危惧されている。
[アライグマ]	上富良野町の市街地を含めた全域において、スイートコーンやデントコーン、メロン、イチゴ、南瓜等の被害のほか、冬期における施設内での備蓄物の食害や越冬による病原菌拡散の危惧が発生している状況にある。年々被害の範囲及び捕獲数も増加してきており、今後も個体数の増加に伴い被害の拡大が予想される。

(3) 被害の軽減目標

指 標		現状値（平成29年度）	目標値（2021年度）
エゾシカ	被害金額	24,746千円	23,000千円
	被害面積	81.89ha	70.00ha
ヒグマ	被害金額	680千円	500千円
	被害面積	3.20ha	2.00ha
アライグマ	被害金額	1,057千円	900千円
	被害面積	2.43ha	2.00ha
計	被害金額	26,483千円	24,400千円
	被害面積	87.52ha	74.00ha

(4) 従来講じてきた被害防止対策

	従来講じてきた被害防止対策	課 題
捕獲等に関する取組	<p>[捕獲体制]</p> <p>猟友会に駆除を依頼し、駆除活動に対し助成策（謝礼等）を講じている。なお、アライグマについては、外来生物法に基づく防除実施計画により行っている。</p> <p>担い手対策として、駆除に参加しかつ猟友会会員となるものに対しては、狩猟免許取得費等に対し助成を行っている。</p> <p>[捕獲機材の導入等]</p> <p>箱わな等の捕獲機材については、町有害鳥獣被害防止対策協議会にて適宜購入し、猟友会会員に貸付を行っている。</p>	<p>[捕獲体制]</p> <p>担い手（猟友会会員）の高齢化が進んでおり、新たな担い手の確保とともに技術向上の機会を設ける必要がある。</p> <p>アライグマについては、年々駆除依頼件数が増加しており、猟友会会員も生業の傍らの活動であるため、ピーク時では迅速な対応が困難となってきている。また、わな設置後の巡回については、巡回人員の確保や組織的な活動が行えるよう、さらなる仕組みづくり、環境づくりが必要である。</p> <p>[捕獲機材の導入等]</p> <p>アライグマについては、駆除依頼及び捕獲機材の損傷が増加してきており、更なる</p>

		機材補充が必要である。
防護柵の設置等に関する取組	エゾシカ侵入防止用に、町有害鳥獣被害防止協議会にて電気柵を購入し、希望する農業者の農地へ設置している。	柵の維持管理、修繕については農業者が行っているが、老朽化や風雪害による倒伏箇所及びシカの接触による破損箇所からの侵入も依然発生しているが、農業者各自の経営面積拡大により、迅速及び細やかな修繕等が困難な状況である。また、柵の切れ間からの侵入や飛び越え等、圃場の地形等により防護効果が薄れるケースもある。

(5) 今後の取組方針

<p>[捕獲等に関する取組]</p> <p>農林業関係機関、猟友会、農業団体、警察等と連携し、被害防止に向けて効果的な対策を検討する。また、猟友会に対しては、体制の維持を図るための助成を継続する他、駆除活動の効率化や捕獲技術の継承、向上及び必要な捕獲機材購入促進のため協議を行っていく。</p> <p>担い手確保については、引き続き狩猟免許取得等助成を行うとともに、猟友会と今後の対策について検討していく。また、アライグマ捕獲については、捕獲効率の向上のため、農業者の防除従事者登録について地域へ啓発活動を行う。</p> <p>[防護柵の設置等に関する取組]</p> <p>電気柵未設置の圃場に対し耕作者へ積極的に設置を働きかけるとともに、適切な維持管理を周知していく。</p>

3. 対象鳥獣の捕獲等に関する事項

(1) 対象鳥獣の捕獲体制

<p>鳥獣被害対策実施隊については、猟友会からの推薦を受けたものに対し町長が委嘱しており、被害報告により各人で捕獲を行っているが、一斉及び緊急捕獲については、猟友会会員において責任者を定め、町及び関係機関と連携しながら行っている。なお、エゾシカ、ヒグマに関しては、銃刀法第5条の2第4項第1項に規定する「事業に対する被害を防止するためライフル銃による獣類の捕獲を必要とする者」に該当するため、実施隊員にライフル銃の所持をさせている。</p> <p>アライグマについては、防除実施計画に基づき町長より従事者を任命し、箱わなによる捕獲を行っている。</p>
--

(2) その他捕獲に関する取組

年度	対象鳥獣	取組内容
31 (2019)	エゾシカ ヒグマ アライグマ	<ul style="list-style-type: none"> ・狩猟免許取得等の助成を講じ、担い手の確保・育成を図る。 ・猟友会への助成策継続。 ・わなの増台を図る。
2020	エゾシカ ヒグマ アライグマ	<ul style="list-style-type: none"> ・狩猟免許取得等の助成を講じ、担い手の確保・育成を図る。 ・猟友会への助成策継続。 ・わなの増台を図る。

2021	エゾシカ ヒグマ アライグマ	<ul style="list-style-type: none"> ・狩猟免許取得等の助成を講じ、担い手の確保・育成を図る。 ・猟友会への助成策継続。 ・わなの増台を図る。
------	----------------------	--

(3) 対象鳥獣の捕獲計画

捕獲計画数等の設定の考え方	
[エゾシカ]	ここ数年での捕獲数が120～140頭、被害額も2千万～3千万円強で推移しており、これら被害拡大を防止するため、捕獲計画数については、過去の実績に基づき設定する。
[ヒグマ]	ここ数年での捕獲数が2～3頭、被害額も300千～700千円で推移しており、これら被害拡大を防止するため、捕獲計画数については、過去の実績に基づき設定する。
[アライグマ]	ここ数年での捕獲数は30頭から200頭へと著しく増大してきおり、被害額も1,000千円を超える状況となってきた。よって、捕獲計画数については、近年の捕獲増加数を考慮して設定する。

対象鳥獣	捕獲計画数等		
	平成31(2019)年度	2020年度	2021年度
エゾシカ	140頭	140頭	140頭
ヒグマ	3頭	3頭	3頭
アライグマ	250頭	250頭	250頭

捕獲等の取組内容	
[エゾシカ]	生息数及び活動域は年々拡大傾向にあるため、捕獲対象区域を町内全域とし、捕獲手段を銃及びくくりわなとする。また、捕獲期間については銃を通年、くくりわなを4月～9月までとする。
[ヒグマ]	活動域が年々拡大してきているため、捕獲対象区域を町内全域とし、捕獲手段を銃及び箱わなとする。また、捕獲期間については、営農活動の終期(11月下旬)にかけても足跡等が確認されているため、4月から12月までとする。
[アライグマ]	生息数は著しく増大してきており、かつ冬期間も農業施設内での食害及び越冬が確認されているため、捕獲対象区域を町内全域とし、捕獲手段を箱わな、捕獲期間を通年とする。

ライフル銃による捕獲等を実施する必要性及びその取組内容	
エゾシカ及びヒグマの銃による捕獲については、遠距離からの射撃及び命中精度が高いことにより実施隊員の安全、半矢の防止及び捕獲率の向上が図れることから、銃刀法第5条の2第4項第1項に規定する「事業に対する被害を防止するためライフル銃による獣類の捕獲を必要とする者」に該当すると判断されるため、実施隊員のライフル銃所持による捕獲も行うこととする。その際の実施予定時期及び予定場所については、上記「捕獲等の取組内容」と同様とする。	

(4) 許可権限委譲事項

対象地域	対 象 鳥 獣
該当なし	該当なし

4. 防護柵の設置その他の対象鳥獣の捕獲以外の被害防止施策に関する事項

(1) 侵入防止柵の整備計画

対象鳥獣	整 備 内 容		
	平成31(2019)年度	2020年度	2021年度
エゾシカ	<ul style="list-style-type: none"> 電気柵 農作物の被害状況を把握し、農業者からの要望に基づき必要数を設置 	<ul style="list-style-type: none"> 電気柵 農作物の被害状況を把握し、農業者からの要望に基づき必要数を設置 	<ul style="list-style-type: none"> 電気柵 農作物の被害状況を把握し、農業者からの要望に基づき必要数を設置

(2) その他被害防止に関する取組

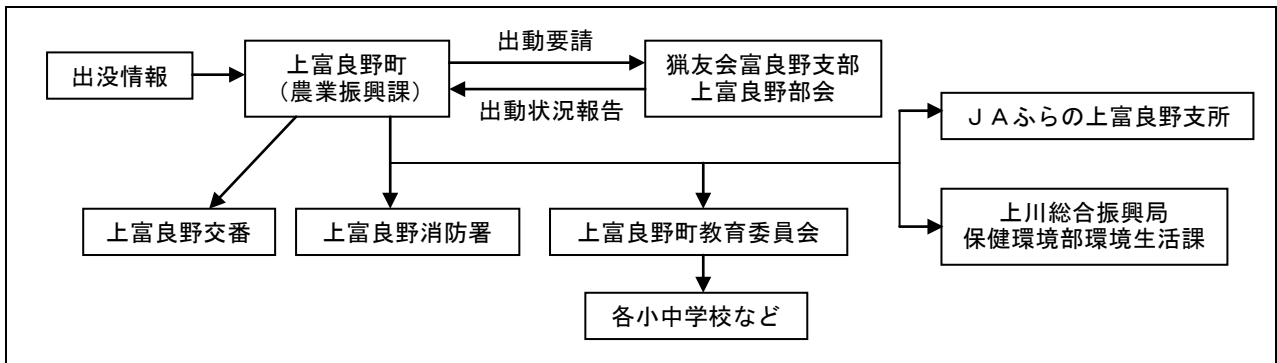
年度	対象鳥獣	取 組 内 容
		該当なし

5. 対象鳥獣による住民の生命、身体又は財産に係る被害が生じ、又は生じるおそれがある場合の対処に関する事項

(1) 関係機関等の役割

関係機関等の名称	役 割
上富良野町(農業振興課)	情報収集及び提供、対応策協議及び要請
富良野警察署上富良野交番	交通規制及び事故対応、ヒグマ出没時の警備等
ふらの農業協同組合上富良野支所	被害状況の調査、把握及び組合員への情報提供
北海道猟友会富良野支部上富良野部会	対象鳥獣の捕獲、駆除、追い払い及び捕獲員の統括

(2) 緊急時の連絡体制



6. 捕獲等をした対象鳥獣の処理に関する事項

[エゾシカ、ヒグマ]

上富良野町の一般廃棄物処理施設（クリーンセンター）への搬入を原則とするが、地形的要因等により持ち帰りが困難な場合に限り現地にて埋設する。

[アライグマ]

上富良野町の一般廃棄物処理施設（クリーンセンター）へ搬入する。

7. 捕獲等をした対象鳥獣の食品としての利用等その有効な利用に関する事項

エゾシカについての食用として利活用を図るため、利活用が可能な施設の整備が必要となる。

将来、町の関係施設計画の中で捕獲数に応じた計画の検討を進める。

8. 被害防止施策の実施体制に関する事項

(1) 協議会に関する事項

協議会の名称	上富良野町有害鳥獣被害防止対策協議会
構成機関の名称	役割
上富良野町（農業振興課）	事務局（活動計画作成、情報収集及び発信）
ふらの農業協同組合上富良野支所	被害状況の調査、把握及び組合員への情報提供
北海道猟友会富良野支部上富良野部会	対象鳥獣の捕獲駆除及び捕獲員の統括、捕獲技術及び鳥獣の習性等の情報提供
農業者	情報提供、電気牧柵の設置及び管理

(2) 関係機関に関する事項

関係機関の名称	役割
富良野警察署上富良野交番	交通規制、事故対応等
上川南部森林管理署上富良野森林事務所	国有林におけるヒグマ出没箇所の情報提供及び駆除に係る入林許可等
北海道上川総合振興局産業振興部農務課	鳥獣被害対策等の指導
北海道上川総合振興局保健環境部環境生活課	鳥獣捕獲許可等
上川農業改良普及センター富良野支所	営農技術指導、助言、情報提供等
上富良野町農業委員会	農地巡回及び農業者からの被害情報の提供
鳥獣保護員	野生鳥獣保護のための助言及び指導 鳥獣捕獲及び防除対策への助言及び協力

(3) 鳥獣被害対策実施隊に関する事項

平成25年度に設置しており、北海道猟友会富良野支部上富良野部会に所属し、同部会から推薦があった会員に対し町長が委嘱している。現在23名で構成されており、全員が銃の狩猟免許を所持している。

農業被害防止に関し、被害の状況及び対象鳥獣の出没状況の確認の他、緊急の必要がある場合は直ちに出勤し、捕獲等の活動を行っている。

(4) その他被害防止施策の実施体制に関する事項

被害状況及び対象鳥獣の出没状況把握のため、近隣市町村との情報共有を充実させる。

9. その他被害防止施策の実施に関し必要な事項

特になし